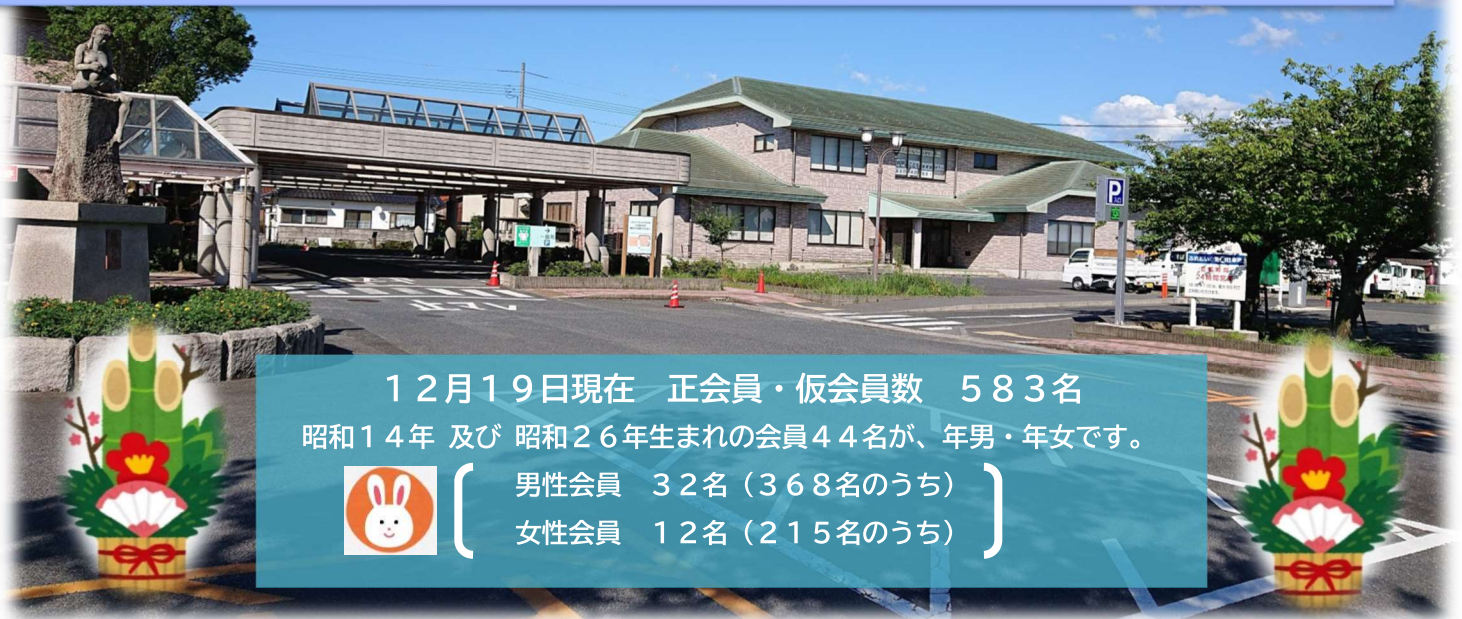


令和5年

謹賀新春

事務局だより 新春特別号



12月19日現在 正会員・仮会員数 583名
昭和14年 及び 昭和26年生まれの会員44名が、年男・年女です。



男性会員 32名 (368名のうち)
女性会員 12名 (215名のうち)

年頭のご挨拶 理事長 仲村 一男



新年あけましておめでとうございます。

輝かしい新春を迎え、会員の皆様におかれましては、健やかに新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、日頃より当センターの事業運営に対するご理解とご協力を賜りました皆様に心から感謝とお礼を申し上げます。

一昨年に続き昨年も、新型コロナウイルス感染症に注意しながらの就業となり、当シルバー人材センターも影響を受ける中、健康で働く意欲のある地域の高齢者の臨時的・短期的な就業と雇用の促進を図り、多様な就業先を確保し提供していくため、様々な取り組みをした年でした。

令和4年度の事業計画書の重点項目に掲げた取り組みを行いました。「会員の拡大の取組み」では、入会説明会を月に2回開催し当日入会が出来るように改め、「未就業会員の解消の取組み」においては、就業希望者の就業機会を増やしていくよう努め、新入会員には早い段階で就業が行えるよう電話による就業案内を行いました。また、「シルバー事業の事務改善・効率化の取組み」ではコンビニ収納サービスを導入し、発注者の支払方法を多様化し利便性を高め、収納消込の事務の効率化を図るとともに、「発注者満足度に関するアンケート調査」を行い、いただいた意見を参考に業務の改善に取り組みました。継続した取り組みとして、「事務局だより」と「安全就業ニュース」を毎月発行し情報発信に努めました。10月に正規職員（女性2名）を採用し、事務局体制の強化を図ったことにより、今まで以上に就業機会の提供を行うことができる体制となりました。

令和5年は、10月にインボイス制度が導入されることで、シルバー事業の運営に影響が及ぶこととなりますが、役職員が一丸となって頑張ってお参りますので、変わらぬご支援・ご協力をお願いいたします。

終わりに、今年も新型コロナウイルス感染症には十分ご留意いただきますとともに、会員の皆様のご健勝を祈念し、新年のご挨拶といたします。





今年の干支は卯年ですが・・干支って、実は 60 種類あるんです。

令和5年(2023年)の干支はウサギで、六十干支では「癸卯(みずのとう)」にあたる年です。そろそろ、年末年始の準備を促すものが現れる時期。来年の干支はウサギということ意識する機会も多いと思います。



干支が12種類の動物というのは常識だが、なぜこの動物たちが選ばれたのか、その理由はあまり知られていない。「先着順で決まった」という昔話もあるが、それは当然おとぎ話で、実はもともと干支の十二支は動物ではなかった。季節に従って植物が変化していく様子を表す12段階、「滋」「紐」「演」「茂」「伸」「巳」「件」「味」「身」「老」「脱」「核」が十二支のもとで、やがてこれらに音や韻が似ている動物に置き換わり、それがネズミに始まる12種類の動物になった。

この十二支と、古代中国の暦法で順序や番号を表す「甲」「乙」「丙」「丁」「戊」「己」「庚」「辛」「壬」「癸」の十干を足した、十干十二支を指して干支という。その組み合わせで天体や年月日、時間の動きを表すにとどまらず、生まれた年月日や時間によって、十干十二支がその人の人格や人生をも決定するという考え方が中国に古くからあり、その流れをくんで日本でもその考え方が広く信じられてきた。

十干と十二支を組み合わせた六十干支という分類があり、来年2023年は「癸卯」。「癸」は順序で言えば最後にあたり、一つの物事が収まり次の物事への移行をしていく段階。また「卯」のうさぎは「茂」という時期であり、繁殖する、増えるという段階にあたる。その両方を備えた「癸卯」は、去年までで様々なことの区切りがつき、次へと向かっていく、そこに成長や増殖といった明るい世界が広がっていくと解釈することができる。

ちなみに60年前にあった前回の「癸卯」の年には、かの名作「鉄腕アトム」が、日本国産連続30分テレビアニメ第一号として、放映が始まった年。超長寿番組「キューピー3分クッキング」、超ロングセラー「日清焼きそば」などが世に出たのもこの年である。やはりこの年に始まるものは、あたりが多い…のかもしれない。

兔にまつわることわざ



・二兎を追うものは一兎をも得ず

同時に二つの事を得ようとする、どちらも成し遂げられなくなってしまうこと。

・兎死すれば狐之を悲しむ

同類の不幸をその縁者が悲しむことのとえ。同類の死は自分にも同じ運命が近づくしだということ。

・兎の昼寝

亀を馬鹿にして昼寝をしたため、競争に負けた童話から、油断をして思わぬ失敗を招くこと。また、昼寝ばかりしている人のこと。

・脱兎(だつと)の如く

兎が駆けるようにとても速くて捕まえないこと。

・兎の登り坂

兎は前足が短くて坂を登るのが巧みであることから、地の利を得て得意の力を発揮すること。

・兎の耳

人の知らない事件や噂などをよく聞き出してくる。地獄耳。

・兎の糞

長続きしないこと。物事が切れてしまい、思うようにはかどらないこと。